



◀駅前広場と直結した開放的な正面入り口。中央奥に見える塔からは時刻を知らせる鐘が鳴り響いていました（昭和47年）。



▲本館の増床工事のため西館（左）は閉館中。営業面積を1.5倍に増やして平成26年春リニューアルオープンの予定です。



▲くずはモール街のシンボルだったD51（昭和47年）。現在は京都のトロッコ嵯峨駅に展示されています。

緑いっぱいの空間で芸能人もやってきた

くずはモール

今から40年前の昭和47年、前年開業の新しい樟葉駅前にも、京阪電鉄が駅前と一体で開発した広さ約136万㎡に及ぶ「くずはローズタウン」の核となる商業施設「くずはモール街」が誕生しました。

池を配した公園風の広場を中心に約60の専門店やスーパードが放射線状に置かれ、ポウリング場や銀行のほか1500台収容の駐車場も完備。当時珍しかった広域型ショッピングセンターの先駆けとして大きな注目を集めました。「樹木や花壇、緑がいっぱいでも歩くだけでも気持ちよくてね」と話すのは楠葉並木に住む中山宏仁さん（65歳）。「入り口の大看板はクリスマスや正月など季節に合わせて飾り付けられ、シーズンが終わると飾り付けの花をもらってました」と振り返ります。

モールの中心には蒸気機関車D51を展示した「汽車のひろば」があり、池の上のステージにデビュー間もない山口百恵など有名タレントが毎週のようにやってきました。「水前寺清子さんや上沼恵美子さんの時は2階のテラスまで見物客でいっぱいでしたよ」とにぎわいの様子を懐かしむ中山さん。「周りには大きなバスターミナルや高層マンションなど当時最新の施設が立ち並び、夢のようなまちだと思いました」と目を細めます。

30年以上親しまれた「くずはモール街」は平成17年、新たな時代のニーズに対応するため全館建て替えられ、「KUZUHAMA MALL」としてリニューアル。現在はさらなる増床計画が進められています。

（平成24年8月号）